



みみ

耳

よい

い

い

メール

メール

国立病院機構 相模原病院 広報誌
令和8年9月18日号
発行：国立病院機構 相模原病院
発行責任者：安達 献
住所：相模原市南区桜台18-1
電話：042-742-8311 (代表)
FAX：042-742-5314

第98号

つなぐ、備える、 未来を守る

～みんなでつくる、安心のまちと病院～

相模原病院

特集 防災

いざという時に、
あなたの行動が
誰かを守る



第98号 目次

- ◆DMAT紹介
「助けられたかもしれない命」を減らすために・・・ 1
- ◆連載コラムQ&A
特集 - 防災 -
 - 診療部・・・ 3
 - 事務部・・・ 4
 - 栄養管理室・・・ 5
 - 薬剤部・・・ 7
 - リハビリテーション科・・・ 8
 - 臨床検査科
 - 放射線科・・・ 9
- ◆ナースのチカラVOL.6・・・ 10

- ◆コーヒーブレイク
銀杏って、体にいいの？
食べ過ぎるとよくないって本当？・・・ 11
- ◆トピックス !!
酒井さんに感謝状をお送りしました・・・ 12
- 連載 近隣保険薬局紹介コーナー
「矢部薬局」様・・・ 13
- 連載 近隣協力医療施設の紹介コーナー
「相模が丘整形外科リハビリテーションクリニック」様・・・ 14



国立病院機構の理念
私たち国立病院機構は国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のためにたゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。



DMAT紹介「助けられたかもしれない命」を減らすために

救急科部長 細谷 智

◆令和8年熊本地震により被災された皆さまへ

このたびの熊本地震によりお亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆さま、そのご家族の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

被災地では復旧・復興に向けた取り組みが続いております。被災された皆さまが一日も早く安心して暮らせる日常を取り戻されることを、職員一同心よりお祈り申し上げます。

災害はいつ、どこで発生するか分かりません。今回の防災特集では、災害時の医療を支えるDMAT（災害派遣医療チーム）の活動を紹介するとともに、地域の皆さまと共に災害への備えについて考える機会となれば幸いです。

●相模原病院のDMATへの挑戦

みなさんは、「DMAT（ディーマット）」という言葉聞いたことがありますか。

DMATとは、「災害派遣医療チーム」のことです。大きな地震や大雨、多くのけが人が出る事故などが起きたときに、すばやく被災地へ向かい、医療活動を行う専門チームです。被災地では、医師や看護師だけでなく、消防、救急隊、レスキュー隊、自衛隊、警察、行政など、多くの人たちと協力して活動します。

●どのような人が活動するの？

DMATは、医師1名、看護師2名、業務調整員1名の、合わせて4名を基本としてつくられます。業務調整員は、事務職員や医療技術職などが担当します。移動手段を確保したり、必要な物資を準備したり、他の機関と連絡を取ったりして、チーム全体の活動を支えます。

災害が起きた地域では、水や食べ物、電気、通信手段などが不足することがあります。その

ためDMATは、自分たちが使う食料や通信機器、必要な道具をできるだけ自分たちで準備して活動します。このように、被災地に大きな負担をかけずに活動することを、「自己完結型」といいます。

●DMATがつくられたきっかけ

日本でDMATがつくられるきっかけとなったのは、1995年に発生した阪神・淡路大震災です。当時は、病院や道路も大きな被害を受けました。そのため、治療が必要な人のもとへ医療をすぐに届けることが難しくなりました。その結果、適切な治療を早く受けることができなければ、助かった可能性のある命もあったと考えられています。このような死を「避けられた災害死」といいます。

この経験をきっかけに、災害が起きた直後から医療チームが活動できる仕組みづくりが進められ、2005年に日本DMATが正式に発足しました。DMAT隊員になるためには、専門的な研修を受け、必要な知識や技術を身につける必要があります。隊員になった後も、災害時に落ち着いて行動できるよう、定期的に訓練を続けています。

●様々な活動を行うDMAT隊員

DMATの仕事は、けがをした人を治療することだけではありません。

被災した病院を支援したり、患者さんを安全な病院へ運ぶための調整をしたり、どの病院にどのような支援が必要かを確認したりします。また、ヘリコプターや救急車などを使って、患者さんを被災地の外へ運ぶ「広域医療搬送」にも関わります。これまでDMATは、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震などの大きな災

害や、列車事故、航空機事故などの現場で活動してきました。

災害のたびに活動を振り返り、より多くの命を守るために、役割や活動方法を見直し続けています。

●相模原病院の取り組み

現在、相模原病院には、日本DMAT隊員の資格を持つ職員がいます。しかし、相模原病院は、まだ日本DMAT指定病院にはなっていません。

そこで当院では、災害が起きたときに地域の皆さまをより力強く支えられる病院を目指し、日本DMAT指定病院の指定取得に向けて準備を進めています。隊員の育成や必要な設備の準備、院内での訓練、消防や行政などとの連携を重ね、災害時にも医療を続けられる体制づくりに取り組んでいます。

災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。だからこそ、災害が起きていない普段から準備をしておくことが大切です。相模原病院は、「助けられたかもしれない命」を一つでも減らすために、地域の皆さまとともに、災害に強い病院づくりを進めていきます。



2024年能登半島地震での活動(避難所巡回)



2024年能登半島地震での活動(輪島市役所駐車場にて)

連載コラムQ&A <気になる疑問にお答えします>

■診療部 ー医師から患者さんへのアドバイスー

救急科部長 細谷 智

Q1：災害に備えて、日頃から準備しておくべきことは何ですか？

A：「お薬」と「医療情報」の備えがとても大切です。

常用しているお薬は、数日分の予備（予備薬）を用意しておきましょう。また、お薬手帳や持病の診療情報（病名・現在服用中の薬など）は、非常時にすぐ持ち出せるようまとめておくとう安心です。

Q2：避難する際、持病のある人が気をつけることは？

A：無理をせず、自分の体調に合わせた早めの行動を心がけてください。

避難所生活では環境の変化により持病が悪化しやすくなります。無理なお出かけは避け、早めの避難と、必要な薬や医療機器の携帯を徹底しましょう。

Q3：災害時に体調が悪くなった場合、どうすればよいですか？

A：「我慢せず、早めに周囲や医療スタッフへご相談ください。

「これくらいなら…」と放置すると重症化することがあります。避難所の救護班や近隣の医療機関に、遠慮なくお声がけください。

Q4：水や食料が不足した場合、健康管理で注意することは？

A：脱水症状や栄養不足を防ぐ意識が大切です。

特に高齢の方や持病のある方は、喉が渇いていなくても少量ずつこまめに水分補給を行い、食事でも分けて摂るよう意識しましょう。体調の変化を感じたら早めの対応が必要です。

Q5：医師として患者さんに一番伝えたい防災のポイントは何か？

A：「自分の健康を守る日頃の準備」が、命を守る一歩になります。

災害時でも安心して治療を継続できるよう、普段からお薬や情報の備えをしておきましょう。不安なことがあれば、日頃の外来診察時に遠慮なくご相談ください。



連載コラムQ&A <気になる疑問にお答えします>

■事務部 ー災害時、医療機関を受診する際に知っておきたいことー

医事専門職 三須 義隆

災害時にも多くの方が医療を必要とされますが、そのような際の医療機関の運用等は、通常と異なっている場合がありますので、事前に知っておくことが安心につながります。

Q1：災害時でも受診できますか？

A：災害時には、救急患者や重症者をいつも以上に優先する必要性が生じたり、各医療機関の状況によっては、患者の受入れや診療内容が制限されたりすることも想定されます。事前に地域の情報（診療状況）を十分に確認することが大切です。

Q2：保険証やお金がなくても受診できますか？

A：災害時には特例措置により、保険証が手元になくても保険診療を受けられたり、難病や障害等の医療費助成が継続適用され受診できる場合があります。また、費用面でも後日対応となることがあります。まずは受診を優先し、各医療機関の窓口等にご相談ください。

Q3：受診時に持っていくとよいものは？

A：以下を準備しておくとしスムーズです。

・お薬手帳 ・マイナンバーカード、資格確認証 ・服用中の薬 ・連絡先メモ
災害時にすぐに携帯出来るよう備えておくとう安心です。

Q4：病院の情報はどこで確認できますか？

A：各医療機関のホームページや自治体の防災情報、医療機関の掲示などをご活用ください。なお、災害時には電話をはじめとした通信サービスがつながりにくい場合もあるため、複数の情報収集手段を確保することが重要です。



連載コラムQ&A <気になる疑問にお答えします>

■栄養管理室 ーもしもの時に心と身体を守る「防災と食」ー

栄養管理室長 藤田 かほる

Q1. 災害用に備蓄したレトルト食品や缶詰。いざという時に美味しく食べられるか不安です。平時からできる工夫はありますか？

A：慣れない避難生活や非常時に、食べ慣れないものを無理に口にするのは心にも負担がかかりますよね。そこで大切にしたいのが、完璧を求めない「ローリングストック（循環備蓄）」という“ゆるやかな工夫”です。

普段のお買い物で、日持ちのする缶詰や乾物を「少し多め」に買っておき、日常の自炊で使いながら、使った分を買い足していく。これなら、特別な「災害食」を身構えて準備する必要はありません。例えば、私の好きなサバやイワシの水煮缶。これらは平時の「今日はちょっと包丁を持ちたくない」という日のお助け一品になりますし、缶詰の「汁」には血液を整える大切な栄養（DHAやEPA）がたっぷり溶け出しています。水煮缶を選んでおけば塩分も調整しやすく、日常のスープの出汁としても、災害時の貴重な栄養源としてもそのまま大活躍してくれます。

まずはスーパーの缶詰売り場で、「これ、普段のおかずにも美味しそうだな」と思うものをひとつ、多めにカゴへ入れてみることから始めてみませんか？

アルファ化米は白米からピラフ、今はパスタも発売されていて、キャンパー間で愛用されているようです。

Q2. 災害時の避難所や備蓄品での食事は、おにぎりやパン、カップ麺などの「炭水化物」ばかりに偏ると聞きました。栄養不足が心配です。

A：テレビのニュースなどで、天井まで山積みになった菓子パンやカップ麺の映像をご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。発災直後の超急性期は「まずエネルギーを入れること」が最優先ですが、これが2週間、4週間と続いてしまうのは、身体にとってやはり好ましくありません。炭水化物に偏った食事が続くと、食べたものを効率よくエネルギーに変えるための火種である「ビタミンB1」が不足し、身体に乳酸（疲労物質）が溜まって「夏バテのような酷いだるさや食欲不振」を引き起こしてしまうのです。

特にお勧めなのが、乾燥わかめ、大豆のドライパック、そして長持ちする野菜ジュースです。炭水化物ばかりの食卓に、乾燥わかめを「パラリと一掴み」足してスープを作ってみる。大豆パックをおにぎりにそっと添えてみる。それだけで、不足しがちなたんぱく質やビタミン、食物繊維が補われ、お腹の底からじんわりと元気の火が灯ります。「アルファ化米+野菜ジュース」でケチャップライスになります。

Q3. 「パッククッキング」ってなんですか？

A：脱水症状や栄養不足を防ぐ意識が大切です。

「パッククッキングって、なんだか専門的で敷居が高そう」と思われる方も多いかもしれませんがね。でも、一歩立ち止まって仕組みを見てみれば、実はとってもささやかで、お腹も心もほっとほどける「魔法の知恵」なのです。

パッククッキングとは、食材を「高密度ポリエチレン製のポリ袋」に入れ、電気ポットや、お湯を張ったお鍋で袋ごと湯煎して火を通す調理法です。スーパーのロール型什器で見かける、あの“シャカシャカ音のする袋”が大活躍してくれます（つるつるした透明の袋は熱に弱いので注意してくださいね）。

この方法のいいところは、大きく分けて4つあります。

- **お水を汚さない**：袋の中で調理が完結するため、お鍋の水が汚れません。そして、そのまま召し上がってお皿要らず。
- **少ない調味料で味付けが出来る**：約半分で味が付けられます
- **個別に対応できる**：1つの袋に1～2人分ずつ分けて調理できるため、ご家族の体調に合わせた「おかゆ」と、普通の「ごはん」を同じお鍋で同時に作ることができます。
- **温かい食事が食べられる**：災害時、冷たいおにぎりばかりが続くと心まで凍えてしまいますが、これなら「温かいスープやごはん」をハフハフとにこやかに食べられます。

平時のちょっとした時間に、お子さんやご家族と一緒に「ポリ袋でスクランブルエッグを作ってみようか」と、実験のようにおうちで楽しんでみるのも、とても素敵な防災訓練になります。

結びに代えて：日常のささやかな幸せを、もしもの時にも

災害という、自分ではどうにもならない大きな困難に直面したとき。完璧な栄養バランスを目指して神経質になる必要はまったくありません。災害時の食養生は、「30点できれば大合格」なのです。大切なのは、どんなときでも「ご自身と、大切な人の心と身体を労わること」。

おうちの棚にあるお気に入りの缶詰を開けて、ポリ袋で温かいごはんを炊く。そんなささやかな工夫の引き出しを持っているだけで、私たちの心には「しあわせを待つ余裕」が生まれます。季節の移ろいを愛おしみながら、無理をせず、一步一步。

パッククッキング災害訓練でやってみました。

ビニール袋調理(無洗米100g+水140cc=ごはん)
20分ゆでて、10分蒸らせば出来上がり



ビニール袋でごはんが炊けて、参加職員からも『びっくり!』の声



連載コラムQ&A <気になる疑問にお答えします>

■薬剤部 ―災害に備える「お薬の準備」―

薬剤部長 森 達也

Q1：薬はどのくらい備えておくべきですか？

A：災害時は医療機関への受診が難しくなるため、常用薬は最低でも3日分、可能であれば1週間分以上の予備を持っておくことが推奨されます。特に慢性疾患で治療を継続している方は、薬を中断しないようにしましょう。新しいお薬をもらったら予備のものと入れ替えて常に新しいお薬にしておくようにしましょう。また、非常時に持ち出しやすく、気温や湿度の変化が少ない場所（玄関、寝室、リビングなど）に保管するのがおすすめです。

Q2：お薬手帳はなぜ重要ですか？

A：災害時には普段通っている医療機関以外を受診するケースがあります。その際、お薬手帳があれば服用中の薬やアレルギー情報を正確に伝えることができ、安全に治療を継続できます。紙の手帳に加え、スマートフォンで写真保存しておくとともにさらに安心です。

Q3：薬が手元にない場合はどうすればよいですか？

A：災害時には特例措置として、医師の診察がなくても薬剤師の判断で一部の薬が提供できる場合があります。ただし薬の種類によって制限があるため、まずは医療機関や薬局に相談することが大切です。

Q4：冷所保存が必要な薬はどうすればよいですか？

A：災害時にインスリンやホルモン剤などの冷所保存のお薬が停電等で冷蔵できなくなった場合は、直射日光を避けてできるだけ涼しい場所で保管します。多くの薬は短期間なら室温でも品質が保たれますが、自己判断せず、早めにかかりつけ医や薬剤師に相談しましょう。



連載コラムQ&A <気になる疑問にお答えします>

■リハビリテーション科 —避難生活で健康を守るために—

作業療法士長 清水 翔鳥

Q1：避難生活で体調を崩さないためには？

A：避難所生活では活動量が低下し、筋力低下や体調不良につながります。長時間同じ姿勢を避け、こまめに体を動かすことが重要です。特に立ち上がった時の低血圧には注意をする必要があります。長時間座った後は急に動き出さずにゆっくりと体を慣らしていくと、起立性低血圧、立ちくらみや失神症状をさけることが出来ます。

また、可能であれば「清掃班」や「物資班」など皆で役割を作りチームを組織すると長期化した避難生活にメリハリが生まれ身体、精神の両面で自身や周囲の支えとなります。

Q2：エコノミークラス症候群の予防法は？

A：長時間座ったまましていると血栓ができやすくなります。特に車中泊などの狭い場所で姿勢や動きが制限される状況ではリスクが高まります。1時間に1回を目安に足首の曲げ伸ばしや足踏みを行いましょう。また、水分補給も忘れずに行いましょう。

Q3：高齢者が気をつけることは？

A：生活環境の激変に対する対応が苦手な方は活動量の低下により「生活不活発病」が起こりやすくなります。定期的な体操や散歩など、避難生活の中でも時間を決めて意識的に体を動かす習慣を作るとよいでしょう。

また、歩くときは転びにくい歩き方を意識するようにしましょう。特に踵から着くように歩くことを意識すると簡単に転びにくい歩き方の練習ができます。

Q4：簡単にできる運動は？

A：座ったままの足踏みやひざ伸ばし、かかとの上げ下げ、肩回しなどがおすすめです。日常の中で無理なく継続することが重要です。

相模原病院リハビリ科の体操動画も是非ご参考にご覧ください！



連載コラムQ&A <気になる疑問にお答えします>

■臨床検査科 —災害時の検査と画像診断—

血液主任 水野 正浩

■放射線科

診療放射線技師長 小松崎 篤

災害時は限られた資源の中で、命に関わる患者さんを優先しながら検査・画像診断を行います。

災害時の検査対応について

限られた状況でも、必要な検査を優先して行います

災害時でも必要な検査を行います

限られた資源での検査運用

- 電気の制限
- 水道の制限
- 必要な検査を優先

非常用電源で検査を継続

電気や水は制限がありますが、電気や水を使わない定性検査は災害時でも実施できます。

災害時でも常時対応できる検査（電気・水を使わない（定性検査））

状況により対応可能な検査（電気・水・機器が必要）

感染症の検査

尿検査

血液ガス検査

血算・生化学検査

輸血関連検査

緊急対応可能な画像検査

インフルエンザウイルスや新型コロナウイルスなど

尿の色や成分を調べる検査

呼吸の状態を確認

貧血や体の重症度判定のため

緊急時の出血や貧血対応のため

心電図検査などで心臓疾患や緊急の不整脈の確認

腸胃で迅速な検査を行い、診療や治療に役立てます。

命に関わる緊急性が高い検査や、感染症検査を優先して行います。

災害時は検査の種類や件数が限定されますが、医師の診療や治療に必要な情報を提供し、皆さまの安全と健康を守るために努めます。

災害時の画像診断

限られた環境の中でも、命を守るために必要な検査を行います

非常用発電機

救急医療に必要な医療機器へ優先的に電力を供給します

安全確認のうえで検査を実施

限られた電力の中で診療を継続

迅速な診断と適切な治療へ

放射線の安全管理を徹底

災害時は緊急度に応じて対応

装置や撮影室の安全を確認し、状況に応じて検査を行います。

非常用発電機により、必要な医療機器へ電力を供給し、診療を継続します。

骨折・内出血・臓器損傷などを迅速に確認し、治療方針の決定に役立てます。

放射線は必要最小限に管理し、放射性医薬品も厳重に保管して漏洩を防ぎます。

多くの患者さんが集まるため、待ち時間が長くなる場合があります。緊急度に応じて検査を行います。

重症・緊急性の高い患者さんを優先します

限られた電力を効率的に運用します

命を守るための重要な検査を担っています

安全を最優先に、安心して検査を受けていただけます

ご理解とご協力をお願いいたします

災害時でも、正確な画像診断で患者さんの命を守ります。安全・安心な医療の提供に努めますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

ナースのチカラ

VOL.6 | 2026年秋号

**災害から命を守るために
ー相模原病院の看護師の取組みー**

看護師長 室田 力

■災害担当看護師

室田、藤原、大泉、福元、伊勢、長谷川

●当院看護師の災害への取組みについて

相模原病院では、地震や大規模災害が発生した際にも、入院中の患者さんや来院された方の安全を守り、地域に必要な医療をできる限り継続できるように、日頃から災害対策に取り組んでいます。

当院では、災害現場に出動するDMAT（ディーマット）隊員の資格をもつ看護師が在籍しています。DMATは、大きな地震や大雨、事故などが起きたときに、被災した地域へ行って人の命を助ける医療チームです。

チームには、医師や看護師、連絡や準備を担当する人たちがいます。けがをした人の手当てをしたり、患者さんを安全な病院へ運ぶ手伝いをしたり、病院に必要な薬や道具を届けるための調整をしたりします。災害が起きると、病院も停電や断水で、いつも通りの治療ができないことがあります。DMATは、そのような大変な場所で、できるだけ早く医療を届け、一人でも多くの命を守るために活動します。

災害がないときも、いつでも活動できるように、訓練や勉強を続けています。その一環として、毎年秋に開催される相模原市の防災訓練にも参加しています。

●災害に備えて、今できることを始めましょう

地震や大雨などの災害は、いつ起こるか分かりません。災害が起きたとき、自分や家族の命を守るためには、ふだんからの備えが大切です。

まず、自宅や学校、職場の近くにある避難場所や、そこまでの安全な道を確認しておきましょう。家族が別々の場所にいるときの連絡方法や、集合する場所を話し合っておくことも必要です。

水や食べ物、懐中電灯、携帯電話の充電器、いつも飲んでいる薬などを準備し、定期的に中身を確認しましょう。災害時には、うわさや間違った情報に惑わされず、テレビ・ラジオ・自治体などからの正しい情報を確認することも大切です。

●普段から、周囲の方々と顔の見える関係を作りましょう

災害時には、医療チームや消防、救急など多くの人が支援にあたります。しかし、支援が届くまでに時間がかかることもあります。自分の命を守る「自助」、家族や地域で助け合う「共助」を意識し、日頃からみんなで防災について考えておきましょう。一人ひとりの小さな備えが、自分や大切な人の命を守る大きな力になります。

最後に、相模原病院の看護師は、日頃の備えを積み重ね、災害時にも患者さんの命と安心を守り、地域の医療を支え続けられるよう努めています。



(2025年相模原市 総合防災訓練 参加)

コーヒーブレイク



銀杏って、体にいいの？食べ過ぎるとよくないって本当？

栄養管理室長 藤田 かほる

みなさま、こんにちは。管理栄養士の藤田です。
秋になると、相模原病院の敷地内に立つイチョウの木が、少しずつ色づき始めます。
風に揺れる黄金色の葉を眺めていると、「ああ、今年も秋が来たな」と、自然と足を止めてしまいます。

そのイチョウの木の実が、銀杏です。

銀杏は、昔から日本の食卓に寄り添ってきた食材。
塩を振って焼いたり、茶碗蒸しにそっと添えたり、炊き込みご飯や中華おこわに混ぜると、秋らしい香りとほくとした食感が楽しめます。
栄養面では、ビタミンB群や抗酸化成分を含み、少量でも満足感が得られる、実は“賢い食材”です。

ただし――

銀杏には、昔から語り継がれてきた注意点があります。

「食べ過ぎると、あたるよ」

これは迷信ではなく、経験から生まれた言葉。
銀杏には、たくさん食べると体調を崩す成分が含まれており、特に子どもや高齢者では注意が必要です。

大人でも、1日に10粒前後を目安に、“味わう程度”にしておくのが安心です。

また、お酒の席で銀杏をつまみ過ぎると、胃腸の不調を感じる方もいます。

秋の味覚は、ほどほどに楽しむのが一番ですね。
相模原病院のイチョウの木が教えてくれるのは、「季節を感じながら、無理をしないこと」。

銀杏は、体に良いからたくさん食べるものではなく、季節を楽しむために、少しだけいただく食材。
土瓶蒸し、炊き込みご飯、銀杏の素揚げ、中華炒め（鶏肉＋銀杏）

ね、どれも「少量を楽しむ料理」になってます。
食べ過ぎ防止に向いてるのが面白いところ。

黄金色の葉を眺めながら、今年の秋も、やさしく味わっていききたいものです。

～*～*～ 食は、人を良くする ～*～*～

～*～*～ 食事は、人を良くする事 ～*～*～



トピックス!!**酒井さんに感謝状をお送りしました**

医療サービス向上委員会委員長 北野 雅史

医療サービス向上委員会では、患者さんやご家族から頂いたご意見をまとめ、当院のサービス向上に役立てています。ご意見の中に感謝や応援の投書を頂くことも多いのですが、玄関インフォメーションにて勤務されている酒井賢次さんへの感謝のお声が普段から多数寄せられています。

これを受け、当委員会より酒井さんに感謝状を贈呈させて頂きました。

お礼の投書より一部抜粋したものをご紹介します。

- ・見るからに人柄の良さそうな方で、色々な手順を教えてくださいました。誠心誠意を感じ、私も見習わなくてはと思いました。待ち時間は長かったですが、酒井さんと出会えたことで気分がすっきりし、爽やかな気持ちになりました。人間味あふれる方にお会いできてとても嬉しい一日でした。
- ・入口にいらっしゃる酒井さん、素晴らしいです！明るくハキハキとされていて、朝からたくさんの元気をいただき、今日一日頑張れると思いました。どうか長くお勤めになってください。
- ・入口案内の酒井さんは、迷っているご高齢の方にも分かりやすく親切にご案内くださいます。不安な気持ちで来院しても、安心して来られます。酒井さん、ありがとうございます。
- ・面会バッジを受け取る際、「来てくれてありがとう。行ってらっしゃい」「雨の日なのにありがとうね」、帰りには「また来てあげてね」と心のこもった言葉をかけてくださいました。つらい告知を受けた後、その優しい一言に救われました。ただ仕事をこなすのではなく、どんな仕事であっても誰かの心に残ることができるのだと、自分自身の人生を振り返る良い機会になりました。こんなに素晴らしい受付の方

は見たことがありません。我が家でも話題になりました。

酒井さんは元警察官というご経歴をお持ちで、来院される方々の表情や目線からその時々心の内を察し、お声掛けをされているとのこと。また、80歳というご年齢を感じさせない活力で、毎日ランニングを続けて健康を保っていらっしゃいます。これからもお元気で活躍できることをお祈りいたします。

当委員会では、ご意見箱に寄せられたご意見を毎週回収し、委員全員で情報を共有しております。その後、担当部署へ伝達し、事実確認および対策の検討を行っております。さらに、毎週委員会を開催し、活動報告及びさらなる対策の必要性について話し合っております。接遇に関するご意見については担当職場長へ通達し、職場長から職員への指導・教育を行っております。また、患者満足度調査やあいさつ運動を実施し、医療サービスの向上に努めてまいります。今後ともよろしくお願いたします。



連載

近隣保険薬局紹介コーナー

矢部薬局 様



矢部薬局は、地域の皆さまが安心して暮らせるよう、一人ひとりに寄り添った医療の提供を大切にしている保険薬局です。JR横浜線矢部駅から徒歩約8分の場所にあり、近隣には小児科をはじめとする医療機関があることから、小さなお子さんからご高齢の方まで幅広い年齢層の患者さんにご利用いただいています。それぞれの患者さんの生活や状況に合わせて、安心してお薬を使用できるよう、丁寧で分かりやすい服薬指導を心掛けています。

また、処方箋調剤だけでなく在宅医療にも積極的に取り組み、ご自宅で療養される患者さんにも安心して薬物治療を続けていただけるよう、医師や訪問看護師、ケアマネジャーなど多職種と連携しながら支援しています。さらに、スポーツファーマシストが在籍しており、競技者やスポーツ愛好者を対象としたアンチ・ドーピングに関する相談にも対応しています。

患者さんの利便性向上にも力を入れており、LINEによる処方箋受付サービスを導入しています。事前に処方箋を送信していただくことで、来局時の待ち時間を短縮でき、スムーズにお薬を受け取ることが可能です。

これからも地域に根ざした「かかりつけ薬局」として、患者さんとの信頼関係を大切にしながら、安心して相談できる身近な存在であり続けられるよう努め、地域医療に貢献してまいります。



開局時間

矢部薬局

月・火・水・金 8:45~18:30

木 9:00~17:00

土 8:45~17:30

休業日 日曜日・祝日

神奈川県相模原市中央区矢部 2-29-12

042-768-3301 (TEL)

042-768-0120 (FAX)

全国どここの病院の処方箋でも受け付けております
LINEでの処方箋受付も行っております
待ち時間短縮にご利用ください→



連載

近隣協力医療施設の紹介コーナー



**相模が丘整形外科
リハビリテーション
クリニック**

院長

山森 寛之 先生

■ 地域の医療連携を支える、身近な運動器の専門クリニック

相模が丘整形外科リハビリテーションクリニックは、小さなお子様からご高齢の方まで、地域の皆様がいつまでも自分らしく動ける人生をサポートする整形外科クリニックです。

骨折や捻挫などの急性外傷、スポーツ障害から、肩こり・腰痛、加齢に伴う関節疾患（ロコモティブシンドローム予防など）まで、運動器に関わるあらゆる不調に幅広く対応しております。

■ 豊富な手術・臨床経験を活かした、的確な診断と「可視化」する診療

院長の山森寛之は、大学附属病院や関連病院、プロスポーツチームのメディカルスタッフ等として研鑽を積み、関節鏡手術や人工関節手術など数多くの高度な治療に携わってまいりました。この経験を活かし、当院では診察室に先進のエコー検査機器を導入しています。靱帯や筋肉の病態を患者様と一緒に画像で確認しながら、丁寧で納得度の高い「わかりやすい説明」を徹底しております。

■ 理学療法士・柔道整復師各約10名が在籍する、充実のリハビリ体制

手術が必要な場合は基幹病院を適切にご紹介する一方、当院では手術前後のリハビリテーションや保存療法に特に力を入れています。

広々としたリハビリテーションルームには、理学療法士と柔道整復師がそれぞれ約10名在籍。医師と密に連携を取りながら、単なる痛みの緩和にとどまらず、身体の正しい使い方を指

導し「次のケガをさせない予防医療」と早期の社会・スポーツ復帰を目指します。

■ 土日祝日診療と二診体制で、地域医療の受け皿として貢献

地域の皆様が急なケガや不調の際にもいつでもお立ち寄りいただけるよう、当院では土曜・日曜・祝日も休まず診療を行っております。また、日曜午後以外は医師二名による「二診体制」を整え、お待たせしない工夫を凝らしています。

今後も近隣の医療機関の皆様との「病診連携」をより一層強化し、地域全体の健康に貢献してまいります。どうぞお気軽にご相談、ご紹介ください。



医療法人社団 天友会

相模が丘整形外科

リハビリテーションクリニック

診療日

	月	火	水	木	金	土	日祝
午前	●	●	●	●	●	●	●
午後	●	●	●	●	●	●	★

診療時間

（午前）9:00-12:00

（午後）15:00-18:00

★日/祝の午後診療時間(14:00-17:00)

詳しくは当院 HP へ！→

相模が丘整形外科

で

検索



046-205-4405



住所:〒252-0001

神奈川県座間市相模が丘4-74-24

【病院理念】



私たちは患者の皆さまの人権を尊重し、
十分な説明と同意に基づき、親切で心のこもった医療を提供します。

【基本方針】

1. 総合医療施設としての地域完結型医療の遂行
2. 地域支援病院の使命としての断らない救急医療の継続
3. 良質で安全な効率的医療の継続と低侵襲医療の拡大
4. 免疫異常（アレルギー・リウマチ）の高度専門施設としての診療、臨床研究、教育研修、情報発信
5. 病診連携・病病連携・薬薬連携の強化
6. 説明と同意（インフォームド・コンセント）の徹底
7. 情報開示の推進
8. 感染症や災害に強い診療体制の維持

当院のSNS

相模原病院ホームページ



YouTube
相模原病院



Instagram
相模原病院



産科



小児科



X (旧 Twitter)
相模原病院



小児科



●ギャラリー

※病院公式SNSにも一部掲載しています。

(6月：梅雨)



(7月：七夕)



(8月：夏休み)



新外来棟プロジェクト、いよいよスタート。
2028年1月着工→2030年秋リニューアルオープン
—— 地域医療を支える連携とその未来へ ——



新外来管理棟建設への
ご寄附のお願い



詳しくはこちら

【お問い合わせ先】
管理課 庶務班長

* 新外来棟プロジェクトに関する記事は、「耳よりいいメール 第96号」に掲載しています。
(病院ホームページからもご覧になれます)